

ショートコメント vol.244 (2022年5月23日)

テーマ：中国向け輸出の減少と先行きへの懸念
～中国のゼロコロナ対策による影響が顕在化～

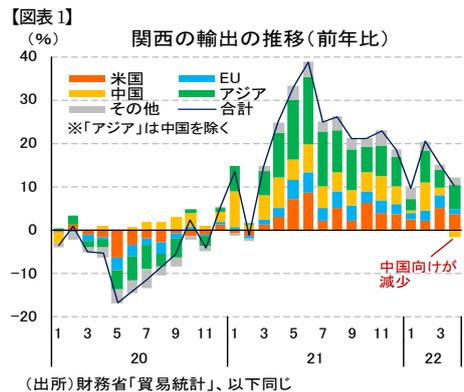
●中国向け輸出の減少

先日発表された22年4月の貿易統計では、関西の輸出は引き続き好調な推移となった。

前年比でプラス10.2%と2ケタの増加が続いているほか、コロナ前比でも30%増と大きく伸びている。ウクライナ危機の影響はサプライチェーンなどの面で始めているものの、世界的な需要は今のところ堅調に推移している。

その一方で、4月の結果には懸念すべき動きもみられる。中国向けの輸出の減少である。図表1のとおり、輸出全体がプラスで推移する中、中国の減少が目を引く。

これは主に、中国でのゼロコロナ対策に伴う、大都市のロックダウンの影響とみられる。天津などに続き、3月には中国最大の経済都市、上海もロックダウンとなった。それに伴い、工場の稼働停止や消費の減少による影響が広がっている。

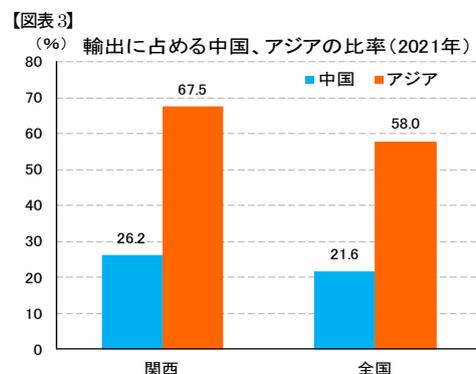
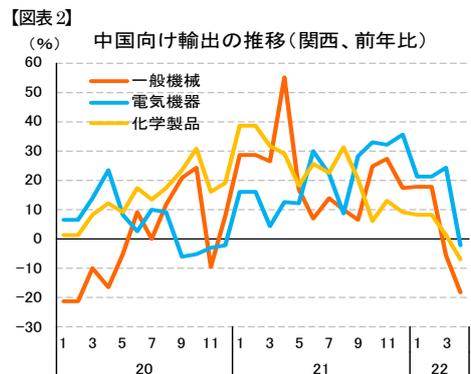


●不透明な先行き

中国向けの輸出は、3月には電機を除く主要品目で減少が始まり、4月に入って電機も減少に転じた(図表2)。まだ中国以外の需要が堅調に推移しているため、輸出全体への影響は限定的であるが、先行きは楽観できない。

中国政府は上海のロックダウンを6月には解除する見通しを示しているが、感染状況次第では延長される可能性もある。上海以外の都市を含めた状況も不透明な中、場合によっては、5月はもちろん、6月以降も減少が続く恐れはあろう。

中国経済の成長鈍化は、台湾などのアジアNIEsや東南アジアなど、アジア全体にも波及する。関西の輸出に占める比率は、中国が26%、アジア全体が68%と、いずれも全国平均を上回る(図表3)。いわゆる中国リスクは、関西景気の今後を左右する大きな要素といえよう。



●内外需ともに停滞の恐れ

コロナ禍に加え、各種コストや物価の上昇による内需の停滞が続く中、これまで景気を支えてきたのは外需であった。今後、中国経済の成長鈍化のほか、ウクライナ危機による世界需要の鈍化が進めば、外需の停滞も始まる。それは不況入りが近づくことを意味するため、まずは6月にかけて、中国向けの輸出が改善するか否かが一つの試金石となる。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。